

■アラブ首長国連邦：UAE初の原子力発電所を韓国企業連合に発注

アラブ首長国連邦のアブダビ原子力公社（ENEC）は2009年12月27日、原子力発電所の発注先を韓国企業連合に決定したと発表した。同国初となる原子力発電所は2017年の運開を予定、建設費は200億ドルで、60年間の運転委託を含めた総額は400億ドルに上るとみられる。韓国電力公社（KEPCO）を中心に現代建設、サムスンC&T、斗山重工業からなる韓国企業連合は、4千万kWを越えると想定される需要に対応するため、2020年までに総容量140万kW原子炉4基の完成を目指す。東芝、米ウェスティングハウスは、計測制御装置や一次冷却材ポンプなど韓国企業が提供できない部分を提供することになると見られる。韓国大統領府は同日、韓国史上最大の巨大プロジェクトであるとの声明を発表したほか、KEPCOはトルコと原子炉2基の輸出交渉を行なっていることを明らかにするとともに、同社が今後は海外展開を計画しており、今回の受注が中東地域を始め他国を説得する好材料になると表明した。観測筋ではアレバを中心とする仏企業連合および日立・GE連合が有利とされていたが、仏企業連合に比較し160億ドル下回る応札価格と12月27日に急遽ハリファ UAE 大統領兼アブダビ首長と会談した李明博大統領によるトップセールスが功を奏したと報じられている。また、UAE 随一の産油国であるアブダビは、ドバイショックの影響を乗り越えての資金調達が可能であるとみられている。